

Title	ベンチャー支援
Author(s)	山脇, 雅則
Citation	年次学術大会講演要旨集, 38: 519-522
Issue Date	2023-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19174
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

1 G 0 9

ベンチャー支援

○山脇雅則 ((一財)ベンチャーエンタープライズセンター)

myamawaki@nts.yamaichi-techno.jp

1. はじめに

一般社団法人ベンチャーエンタープライズセンター(VEC)は、1975年、通商産業省(現・経済産業省)と民間企業によりベンチャー支援を目的に設立されました。

「忘れられた30年」を経過した今、日本の経済成長と雇用の拡大を図り、国際的な貢献を果たしていく上で、スタートアップ企業をはじめ、新産業の振興が重要な課題となっています。世界各国では、情報関連分野をはじめ、バイオ、環境、農商工分野、さらにはソーシャルビジネス分野までスタートアップの活躍が目覚ましく、わが国においても先発諸国の取り組みに学び、新しい時代を切り開く産業の発展を目指さねばなりません。

VECは、ベンチャーから大企業に発展された本田宗一郎氏や堀場雅夫氏等からも多大なアドバイスを頂きながら、公的機関としてベンチャー企業の発展・育成事業を進めて来ました。

VECはこのような30年以上にわたるベンチャー支援の経験やネットワークを活かすとともに、内外の動向を的確に把握し、情報提供や政策提言などを通じ、スタートアップ企業の発展に適切な事業環境を提供して時代の要請に応えて行きたいと考えています。

2. VECの事業, 今後の展開

2.1 VECの事業

VECの事業を紹介します。

〈東京本部〉

(1) 内外情勢の調査分析。「ベンチャー白書」の刊行

毎年、世界各国の投資額、開業分野、起業数等の情報を集め、国内では企業にアンケート調査を行うことで、起業環境、起業状況などのデータをまとめて内外動内外動向の把握に努めて「ベンチャー白書」を刊行し、中小企業庁の「中小企業白書」などにも転載され、公的資料として広く活用されています。

(2) 東京では高校生向けの「GTE サマープログラム」や大学生・高校生のビジネスプランコンテストを行ない、学生の起業マインドの向上も図っている。

〈関西支部〉

(3) 「企業家交流会」、「セミナー」などの交流、情報交換会の開催

関西支部では1~2ヵ月に1回、企業、大学、研究機関等でご活躍されている方々を講師にお招きして講演会を開き、起業成功者の経験談や関西支部の支部長はじめ参加中小企業の経営者、金融機関、大学の教授など様々な

方々から新しいベンチャー起業家の活動の応援や、情報交換を行っています。



写真1 セミナー風景

- (4) 近畿経済産業局と連携して、「女性起業家応援プロジェクト・LED 関西」に最初から参画して、女性起業家の育成・支援・応援をしています。
- (5) 機関紙の発刊(年4回)などネットワークでメンバー間のホットな情報交換の場を提供して会員間のネットワークづくりにも力を注いでおります。
- (6) 内外の情報モニターによる情報提供を適宜行っています。

2.2 「スタートアップ5か年計画」とVECの今後の展開

「忘れられた30年」は我が国経済の成長率や新産業の発展意に過大な影響を与えています。この危機的状況を回復させることが、地球環境問題はじめ、資源エネルギー・食糧問題などグローバルな課題に我が国が力強く貢献することができると思っています。

VECはスタートアップする起業家の支援と共に既存企業の事業部門がスタートさせた新規事業の発展の支援を行い、「スタートアップ5か年計画」に関連するVECの今後の事業展開を次のように進めて参ります。

- (1) 他国に比して劣っている投資額や企業マインドを他の機関とも連携して向上を図る。
- (2) 2025年開催の大阪関西万博は大きな動機づけにて、最大限に活かす。
- (3) 急務である後継者対策と女性起業家の創出は引き続き重視して行く。

(4) VECは、現在会員制となっているが、今後は会員以外の幅広い方々にも参画を頂き、公的機関の視点からも交流会を中心にイノベーションと地域創生を目指していきたい。

3. ベンチャー白書の情報

ベンチャー白書（ベンチャービジネスに関する年次報告書）は、我が国唯一のベンチャーキャピタルの投資状況を把握する調査として『スタートアップ育成5カ年計画』を始め、教多くの報告書で引用されており、ベンチャー企業および関連機関の関係者、ならびに起業を志す方に活用いただいている。

最新の『ベンチャー白書』の一部は無料公開されていて、また You Tube によるベンチャー白書 2022 説明会も行われている。

ベンチャー白書 2022 を基に、日本と外国におけるベンチャーの分析とデータを知ることができる。

図1は日本のVC等による年間投資の推移を示す。2021年度（2021年4月～2022年3月）における国内のVC等によるベンチャー企業への総投資金額は3,418億円で、2020年度と比べ52.4%の増加となった。また、投資件数は2020年度の1,448件に対し、2021年度は1,915件と前年度比32.3%増加した。

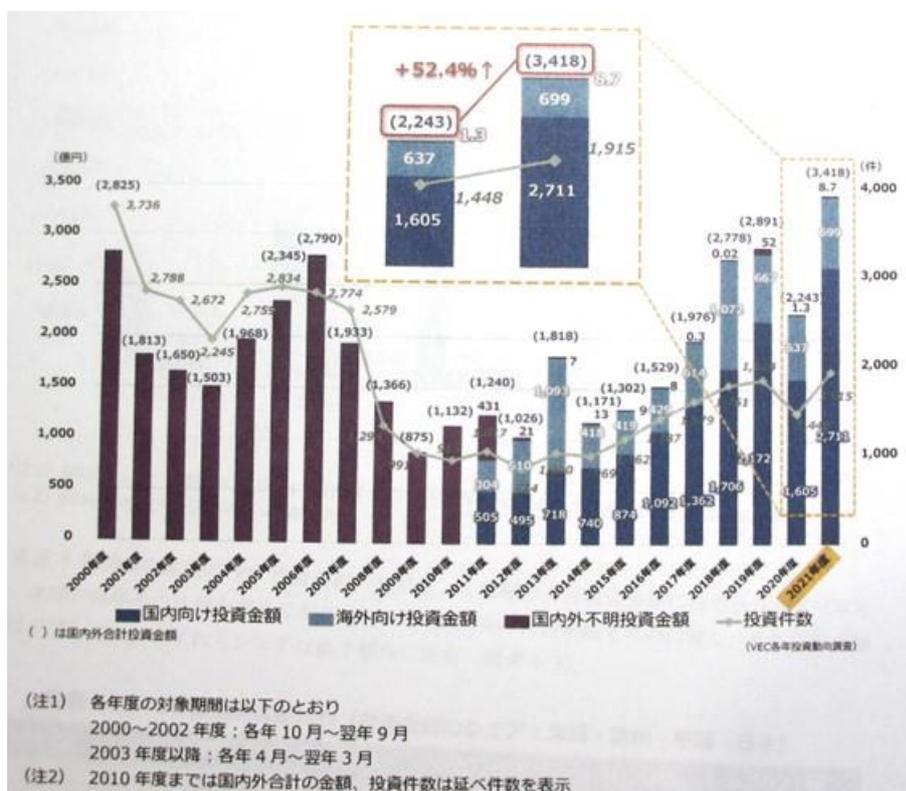


図1 日本のVC等による年間投資の推移

図2はVC投資の国際比較（金額：米国・欧州・中国・日本）を示す。米国、欧州、中国、日本の4地域における過去5年間のVC投資金額を見ると、2011年は、すべての地域で既往最高を記録したことがわかる。各地域の2021年の実績を見ると、米国は36.5兆円で前年の18.3兆円から99.2%増、中国は6.3兆円で前年の3.3兆円から90.0%増と、いずれもほぼ倍増の飛躍的な伸びを示している。一方、欧州は2.4兆円で前年の1.6兆円から52.8%の増、日本は0.3兆円で前年の0.2兆円から52.4%の増と、いずれも5割の伸びは記録したものの、米国、中国の勢いには及ばなかった。

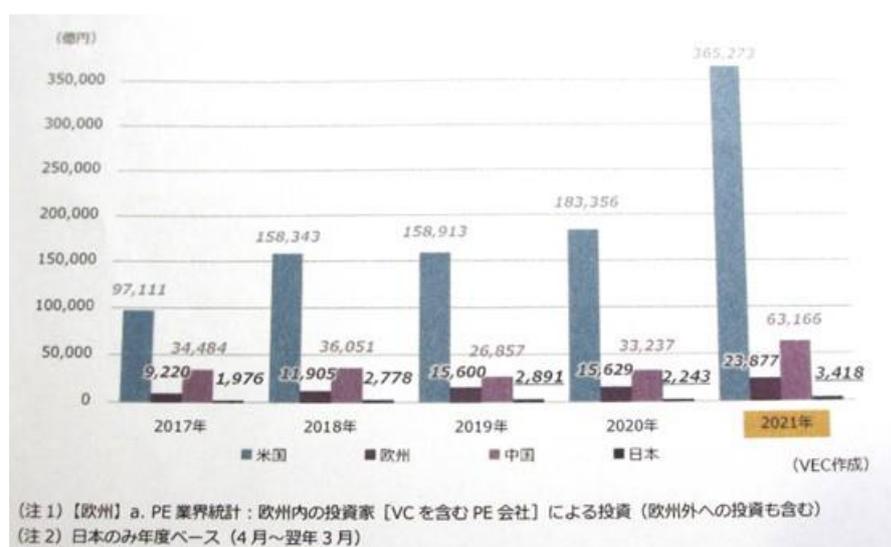


図2 VC投資の国際比較（金額：米国・欧州・中国・日本）

4. おわりに

ベンチャー起業家とスタートアップ企業支援の在り方のポイントは以下のよう
にまとめられる。

- ・ 起業家がチャレンジしやすい環境づくりを目指すこと、
- ・ 情報・経営のノウハウが手に入りやすい仕組み—支援の強化
例えば支援者同士が交流できる場が必要。
- ・ 個人の投資家やベンチャーキャピタルなどが活躍できる場として、交流会など
が多く開催されることが望ましい。
- ・ 事業を実質的に興し、展開してきた経営者の持つリーダーシップが大きな役割を
果たすことに注目したい。
- ・ 日常の業務の中で、新規ビジネスを見出すような熱意を持つ、チャレンジして
やってみるといような体制をつくりたい。
- ・ 柔軟な発想、考え方をもち、何からでも意見を出すことが大事。